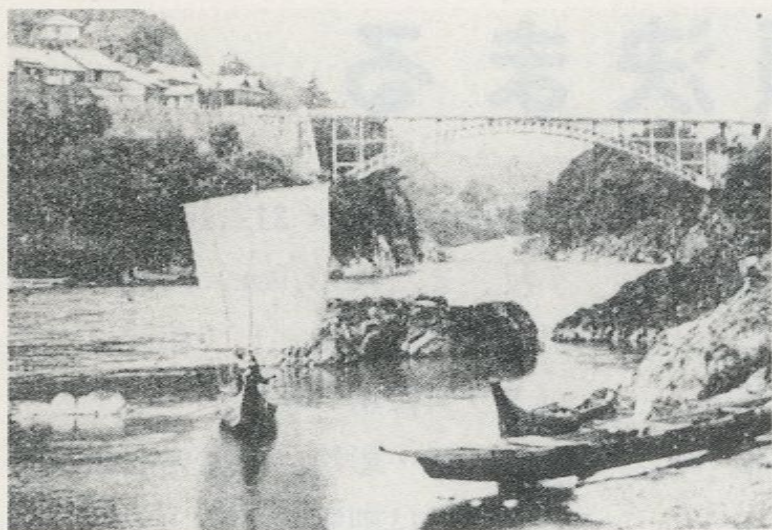


川とともに生きる (4)

左の写真は、昭和初期の青柳橋と川をのぼる帆かけ船です。

かつて物資の大量輸送は陸路より水路が使われ、江戸時代より年貢も最寄りの川湊から船に乗せられ、それぞれの目的地へ運ばれました。川から離れた甘屋(三和町)は川辺へ、伊深、加茂野などは取組や勝山(坂祝町)へ運ばれ、その負担は大変なものでした(江戸時代の「差出明細帳」による)。年貢のほか、民間の消費物資も船を使って大量に運ばれました。

江戸時代には、可児の大脇、八百津の黒瀬、下麻生の船が多



く使われましたが、年が下るにつれて川合、小山の船がそれ以上に増え、幕末から明治後半にかけては、それぞれ百を超える船が活躍しました。

帰りは、帆を使ったり網で引いたりして急流や荒瀬を上りました。

今回、次の方々から貴重な資料を市教育委員会に寄贈いただきました。ありがとうございます。
(平成三年六月分)

● 石油ランプ、扇風機、戦前の水筒 ほか五点

(渡辺寛さん/伊深町)

● ウケ (漁具)

(岩井茂さん/森山町)

● 蚊張、蓄音機

(渡辺靖人さん/川合町)

● 明治時代の地券

(渡辺稔さん/川合町)

● シューチヨキ (集緒器)

(高橋多賀重さん/本郷町)

● 川の玉石採り用ハッピ

(白木太郎さん/川合町)

● 勝手戸棚、一斗マス、製茶用

トオシ ほか七点

(大畑雅彦さん/本郷町)

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めていますので、市社会教育課(内線二二六二)までご連絡ください。